

研究のまど

山口市立大内小学校 教諭 西村史代
(やまぐち総合教育支援センター長期研修教員)

みなさま、こんにちは。西村史代です。私は、今年度長期研修教員として、やまぐち総合教育支援センター内の子どもと親のサポートセンターで共同研究に取り組んでいます。このページでは、研究の内容や6年生の授業の内容等、共同研究のあれこれについてみなさまにお知らせしたいと考えています。第1回目は、研究の内容についてです。

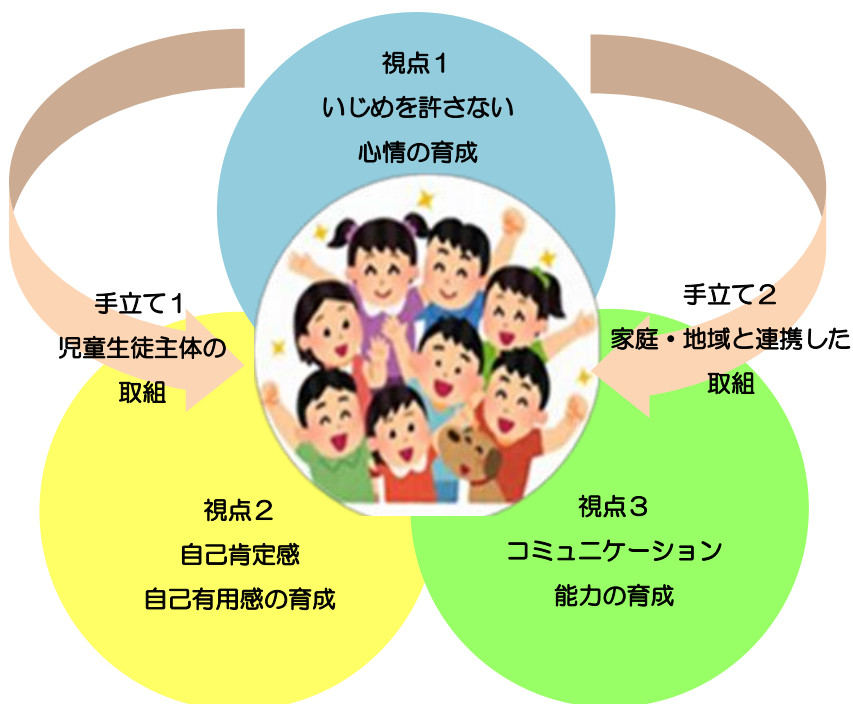
■ いじめの問題の解消に向けて

国立教育政策研究所の行った「いじめ追跡調査」によると、小学4年生から中学3年生までの6年間で約9割の児童生徒が「仲間外れ・無視・陰口」の被害経験をもっているという報告がありました。また、加害経験もほとんど同じ数字を示していることから、多くの児童生徒が被害・加害の立場を入れ替わりながら、いじめに巻き込まれていると推測することができます。このような現状の中、山口県教育委員会では、いじめの問題に対する各学校での具体的取組の推進を図るために、「STOP!!いじめ～今日からできる10のポイント～」(右写真)を作成しました。この冊子をもとに研究を行っています。



研究テーマ

「いじめの未然防止」に向けた計画的・総合的な取組に関する研究
—「STOP!!いじめ～今日からできる10のポイント～」に基づいた実践を通して—



いじめの未然防止のための三つの視点と二つの手立て

アクションプランの作成にあたっては、これまで大内小学校で実施してきた縦割り班活動やほかほか週間、サイレント掃除・サイレント給食などの様々な取組や道徳、総合的な学習の時間、学級活動等の内容を三つの視点に照らし合わせて位置付けます。さらに、子どもたちの実態に応じて、いじめについて考える授業や児童主体の取組である SIO (ストップいじめ大内小) などの新たな取組も加えていきます。

■ 未然防止の取組の推進

いじめの問題に対する取組の中でも、とりわけいじめを減らしていく上で成果を上げているのは、「いじめを生まない」という未然防止の発想に立った取組であるといわれています。

この研究では、左に示した三つの視点と二つの手立てに着目して「いじめの未然防止に向けた年間取組計画(アクションプラン)」を作成します。そして、アクションプランに基づいて計画的・総合的に未然防止の取組を実践することで、「いじめを生まない学校づくり」を推進していこうとするものです。

SIOとは6年生有志54名が「いじめを生まない学校づくり」をリードする組織です。

